

児童22人が共同で制作した巨大版画(七滝中央小学校提供)



22人の秋の思い出を版画に

七滝中央小で巨大版画制作

このほど、七滝中央小学校(村上孝利校長、63人)の1・2年生児童22人が共同制作した巨大版画がお披露目されました。この版画制作は、昨秋に体験したくり拾いの際、児童たちから「思い出に残したい」と提案を受けて企画されたものです。図工の授業を利用して、児童たちは記憶を頼りに版画で表現。個人で作品を制作後、特別サイズの用紙縦1¹/₂横4¹/₂に各作品を合体。スチレン材を使って、木、葉っぱやくりを形どり、緑や黄緑の着色剤を使って仕上げました。完成した巨大版画は、校内の多目的室に展示される予定です。

初市に小さな買い物客にぎわう

みふね初市

上益城郡のトップをきって開かれる「みふね初市」は2月27、28の両日、本町通り一帯を歩行者天国にして開かれ、連日多くの家族連れでにぎわいました。通りには、五郎飴、植木、瀬戸物などが軒を並べ、昔ながらの光景が広がっていました。御船昭和保育園(沖田昌史園長、152人)では、年長児が買い物体験を実施。首からぶら下げた特製の財布に500円を忍ばせ、買い物を楽しんでいました。中村蓮汰くん(滝川)は、「一人での買い物は初めて。ママにお花を買いました」と、ランンキュラスの苗を大事そうに抱えていました。



御船昭和保育園の園児たちに人気を集めた花の苗コーナー

小坂2年ぶり3度目の頂点

町地区対抗駅伝大会

第32回御船町地区対抗駅伝大会は2月13日、役場前を発着点とした10区間20.4¹/₂で行われ、小坂地区が2年ぶり3度目の栄冠を勝ち取りました。大会には、7地区から8チームが出場。レース序盤から主導権を握ったのは昨年優勝の御船地区Aで、4人が区間賞の走りで、後続との差を広げます。そんな中、上位争いを演じた木倉地区と高木地区が激しく追走する展開。しかし、猛烈な追い上げをみせた小坂地区が、最大1分差を最終10区の大場祐哉選手が御船地区Aをとらえて、逆転で優勝のテープを切りました。なお、大会成績は次のとおりです(敬称略)。

▼大会成績(優勝チームのみ選手掲載)

- ①小坂／1時間8分12秒(永野遥、坂本勇太、上口結衣、山本文夫、梶本賢一郎、坂田大士、緒方珠来、倉内雅比古、梶本龍之介、大場祐哉)
②御船A／1時間8分27秒 ③七滝／1時間11分17秒
④上野／1時間12分33秒 ⑤高木／1時間13分7秒
⑥木倉／1時間13分42秒 ⑦滝尾／1時間15分37秒
⑧御船B／1時間15分42秒

▼区間賞(区間・距離・氏名・地区)

▽1区(1.4¹/₂)／村上僚・御船A▽2区(2.4¹/₂)／舛田勇士郎・御船A▽3区(1.2¹/₂)／栗永むつみ・上野／増永彩花・木倉▽4区(1.2¹/₂)／藤本裕二・七滝▽5区(2.6¹/₂)／梶本賢一郎・小坂▽6区(1.4¹/₂)／濱本広河・御船A▽7区(1.4¹/₂)／米納美菜子・御船A／永野優馨・御船B▽8区(2.4¹/₂)／倉内雅比古・小坂▽9区(2.4¹/₂)／山本圭司・木倉▽10区(4.0¹/₂)／大場祐哉・小坂



上／役場前を一齐にスタートして元気よく走りだす1区の小学生女子

中／上り下りの難コース8区を力走して1分差を18秒差までに縮めた小坂地区・倉内雅比古選手(左)

下／最終10区で逆転して優勝のゴールテープを切る小坂地区・大場祐哉選手

上益城郡3連覇逃すも3位入賞

郡市対抗熊日駅伝大会

第37回郡市対抗熊日駅伝大会は2月13日、天草市役所前から熊日びづれす前(熊本市)までの14区間105.3¹/₂で行われ、3連覇を目指した上益城郡は惜しくも3位入賞に終わりました。本町出身の大場祐哉選手(豊秋)は、7年連続12回目の出場。8区10.2¹/₂の右手に不知火海が広がるコースを力走し、区間4位の走りでタスキをつなぎました。大会の結果は次のとおりです。

▼総合(郡市名・総合タイム・前回順位)

- ①天草市 5時間24分40秒②
②熊本市 5時間28分13秒⑥
③上益城郡 5時間30分02秒①
④球磨郡④ ⑤八代市⑧ ⑥阿蘇郡市⑦

▼個人(区間・氏名・区間順位タイム・総合順位)

- 8区・大場祐哉選手④32分13秒⑥



8区・JR三角駅前から旧大岳小前まで10.2¹/₂を区間4位でタスキリレーした大場祐哉選手



カエルに見たてたしめ縄を器用に編み込んでいく男衆

元禄井手の恵みに感謝

上野地区屋敷で井手祭り

水の恵みに感謝する「井手祭り」は2月21日、上野地区屋敷で開かれ、地域住民21人が参加しました。この祭りは、カエルに見たてた「しめ縄づくり」が特徴で、一説には、元禄井手が開通した際、カエルが喜んで井手に飛び込んだことが起こりと伝わっています。男衆は、しめ縄を編み込んだ後、その中に豊作を意味する、にぎり飯とイリコを収納。さらに、しめ縄とお神酒を竹の先端に取りつけた後、南田代集会所近くを流れる元禄井手筋にしめ縄をかざして、今年一年間の無病息災と米の収穫を願いました。その後、今年の座元を務めた倉本幸治さん宅で、女衆が作った手料理で祝宴が開かれていました。参加者の明月勝也さんは、「(元禄井手の)水のおかげで集落の人間も生きてこられた。これからも祭りを続けていければ」と力強く話していました。